[事案 2023-68] 新契約取消請求

・令和6年1月22日 和解成立

※本事案の申立人は、[事案 2023-67] および [事案 2023-78] の申立人の親である。

<事案の概要>

募集人の虚偽説明を理由に、契約の取消し等を求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

令和4年1月に乗合代理店を通じて契約した変額保険について、以下の理由により、契約を取り消して、既払込保険料を返還してほしい。

- (1) 募集人に洗脳されて心神喪失状態にあった息子から強い紹介があり加入したが、息子が詐称行為を受けていたことが判明した。
- (2) 募集人は、お金が増えるという触れ込みでしか保険を販売しておらず、保険本来の目的から逸脱しており不信感がある。
- (3) 保険と言いながら、実態としては保険機能はなく、その説明もなく、何も分からないまま言われるがままに加入した。

<保険会社の主張>

以下等の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

- (1) 契約当時、申立人の子は適正な判断ができない状態ではなく、募集人が詐称行為を行った事実もない。
- (2) 募集人は、面談を通じて申立人のニーズを確認し、資産形成や保障に関する要望を踏まえて説明をしており、「お金が増えるという触れ込みでしか保険を販売しておらず」という事実はない。
- (3) 本契約は、死亡保険金等を受領できる内容であり、保険機能がないものではない。募集人は、面談を通して申立人の保障に関する要望を聞き、保障に関する説明を含めて案内をしておき、「何もわからないまま言われるがまま加入した」という事実もない。複数回の面談による情報提供の結果、契約内容に納得して申込手続がなされている。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、契約締結時の状況を確認するため、申立人および募集人に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、募集人の虚偽説明は認められないが、以下の理由により、本件は和解により解決を図るのが相当であると判断し、和解案を当事者双方に提示し、その受諾を勧告したところ、同意が得られたので、手続を終了した。

- (1) 本件は、申立人に対する説明に先立ち、募集人から申立人の子への説明があったからこそその申込みであったが、子に対する説明では、必ずしも根拠が明らかではない数字等を用いた手書きの説明資料を中心として説明が行われ、その結果、申立人の子は自身の保険について十分な認識を得られないまま申込みをした可能性があり、申立人は子の不十分な認識に影響されて契約の申込みをした可能性が高いといえる。
- (2) 事情聴取の結果によっても、申立人が契約内容およびリスクについて十分に理解できる程

度の説明を行ったかという点については疑問が残る。